

平成29年度 町政懇談会 新川地区

I. 日時・場所等

1. 開催日時 平成29年7月31日(月)午後7時～午後8時30分
2. 開催場所 新川公民館
3. 出席者 立山町 舟橋町長、朝倉副町長、大岩教育長、山元総務課長
舟橋農林課長、青木教育課長、竹島建設課長
高三健康福祉課長、松野水道課長補佐
尾近建設課長補佐
地元議員 窪田一誠議員
新川地区区長会 若崎武司会長
企画政策課 清水課長、寺崎課長補佐、柳田係長、佐伯主事、大前主事
4. 参加者数 102名

II. 実施内容

1. 挨拶

- ①司会 清水企画政策課長(以下、司会) 開会
- ②舟橋町長(以下、町長) 開会挨拶
- ③司会 出席者紹介

2. 懇談会

- (1)・立山町公共施設等マネジメント計画 企画政策課長
・富山連携中枢都市圏 企画政策課長
・下水道整備事業 水道課長補佐
- (2) 地区からの協議事項

◎ 新川公民館の新築について

新川公民館は昭和50年代初期に旧新川農業協同組合が建設したものです。老若男女を問わずコミュニティ施設として活用され現在に至っています。しかし建設から40年近く経過し、老朽化が著しくかつ住民も高齢化して階段の上り下りが負担になってきております。同公民館は敷地が広く、公民館新築の場所には不自由がないと思われまますので、新築していただくよう要望します。

【青木教育課長】

新川公民館は新川地区農村振興会館として、昭和53年に建設され築後38年を経過しております。平成7年度以来、さまざまな改修工事を重ねてきており、平成21年度には国の補助を受けて玄関スロープやトイレの一部洋式化工事を行いました。平成26年度と

27年度には図書室と事務室の空調機の入れ替えを行い、利便性の向上に努めております。公民館は小さなお子様から高齢者まで幅広い世代の方が交流を深めるための交流施設であり安全性の確保を最優先に改修しております。今年度は内壁の塗装の剥がれ、床のタイルの剥がれの改修工事を行うこととしております。公民館新設に関するご要望に関しましては平成28年3月に作成された町公共施設等総合管理計画により既存施設を適切に管理し、耐用年数の長寿命化を図ることとしております、公民館の新設につきましては町内全ての公民館の施設状況、国などの支援制度による財政確保など総合的に勘案する必要がありますので、引き続き施設のメンテナンスを適切に行いながら、検討させていただきたいと考えております。

◎ 町道二ツ塚辻線の県道昇格について

富立大橋と立山インターチェンジ間の町道二ツ塚辻線は、富山立山魚津線と接続し更に片道2車線化が進んでおり、交通量が以前と比べて格段に増加しております。富立大橋の追加工事に伴う片道2車線化が実現し、また滑川から富山インターチェンジへ抜けるスーパー農道とつながることを予想すると、二ツ塚辻線は更なる交通量の増加が予想されその重要性が無視できなくなるものと思います。よってこの二ツ塚辻線は町道から県道へ昇格するよう配慮していただくようお願いいたします。

【竹島建設課長】

ご要望いただきました箇所につきましては、県道富山立山公園線と接続し富山市街地と立山インターチェンジを連絡する延長約1700メートルの路線であります、アクセスの利便性が高く、また近隣地域における開発などに伴い交通量が増加しております。ご指摘のとおり、今後県道の4車線化工事が進み、更に交通量の増加が見込まれるほか、災害発生時の緊急通行確保路線として一体的な管理が必要であると町としても考えており、今年の7月6日には立山土木事務所に、7月10日には県土木部の方へ平成30年度の町重点要望の中で要望しております。実現まで引き続き県に対し当該路線の県道昇格の要望をしてまいります。

◎ 新川保育所の廃所の手続きについて

当保育所を廃所するという話が6月2日にあった。今年から新規児童の入所申込みは受付ず、平成30年度内に現在の保育所機能を他の施設に移動するという計画だと知りました。急な話で、コンセンサスは得ていない訳であります。少子高齢化がどんどん進む中でやむを得ないことと思いますが、廃所計画というのは地区への説明を十分にされることを前提に進めていただくようお願いしたい。

【町長】

先般健康福祉課長、企画政策課長同席の上で、区長会役員の皆様方のお話をさせていただきました。その際いくつかのご意見もしくはご質問等いただいたと伺っております。

唐突に見えてしまったことに対して、これまでの9年間経過報告がしっかりとなされていなかったというか、まだまだ私も議会の動き、町の動きについて周知不足であったということにつきまして、まずもってお詫び申し上げたいと思います。と同時に保護者の方々はやはり不安でもありますので、今後どうしていくのか、特に子どもさんのことが大事でありますから、カバーをしてまいりたいと思っております。

先般、釜ヶ淵地区の町政懇談会でもお叱りをいただきました。私が就任する前からですが、ほとんど保育所の職員を採用していません。4人採用して2人途中辞められたので実質2人です。当然辞めていく職員もいますから、どんどん保育所の職員さんが減っております。立山町と同じような人口規模、同じような産業構造がある町は、全国で103ありまして、これを類似団体と言いますが、その平均と比べると町職員が33人多いという計算になります。そのうちの21人が、保育士あるいは子供たちにごはんを作る調理師さん達が占めています。これだけ12年間ほとんど人を採用せずにきたにもかかわらずまだ、他の市町村に比べて我が町は21人も多いという結果になっています。近隣の他の市町村も、ほとんど保育士さん採用していないと思います。

町立保育所は、保育士さん皆年配の人が多いいということになっております。肉体労働で、自分が思った以上に辞められる方が多くて、正直平成30年度どうやって保育所を回していくか、健康福祉課を含めて大変苦勞している状況であります。しかし、いきなり言って来年の3月に閉めるという訳にはいかないと思いますので、秋口以降にかけて、皆さん方に粘り強く説明してまいりたいと、平成31年度末にこの計画を成し遂げたいと考えておりますので、どうかご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

(3) 質疑・応答

- ◎ 町のマネジメント計画について、平成27年に検討されて平成28年3月に策定したということ。40年という年月の計画をされている訳ですが、この計画は40年間ずっとこのまま遂行していくことにはならないと思います。来年正月明けると選挙がありますが、そのたびに人が代わったりされることによって、この計画そのものが薄れることも考えられると思います。当然先の話ですから約束はできないと思いますが、この計画が町全体で考えた計画として、町長を筆頭に民間から多くの意見を取り入れるような組織づくりの中で計画の策定をしていただきたいなど、いうふうに思います。

【町長】

元となる計画は立山町公共施設等総合管理計画といいます。全国の市町村でこれを作りました。総務省から作るよう通達があり、コンサルタントなどを入れて、パブリックコメントで町民からの意見を聞いて、計画を作ったところであります。

おっしゃるとおり市町村によっては40年計画という長いところもあれば、よその市町村のように30年計画というところもあります。いわゆる絵に描いた餅にならないよう、自分の責任において今後10年間どうするかという短期計画を作ろうとってマネジメント

ト計画を作らせていただきました。このマネジメント計画という言葉は私の造語です。当面、この10年計画の目玉は役場庁舎と町民会館です。役場庁舎は昭和40年の建物です。築後52年。そしてその10年後に町民会館ができました。将来町民会館を壊すことを前提に先にみらいぶを建て、それに合わせて保健センターも売却して、社会福祉協議会があった場所の老人福祉センター旧佐伯会館は、立山町土地改良区の方で預かっています。使えないところは壊さないといけないと思いますが、役場庁舎どう考えてももう10年は厳しい。2つ1つにすることを目標に頑張ろうと、これがマネジメント計画の目玉になります。

もう1点は町営住宅です。人口が減っているにも関わらずそして五百石にアパートが空き部屋が増えているにも関わらず、江崎など町営住宅がいくつも老朽化してきています。何億円もかけて大規模改修するのがいいのか、場合によっては更地にして、ぎりぎりまで持てるものは持って、でも本当に住居に困っている人には家賃、補助金を出してあげたほうがよっぽどうまくいくんじゃないかという思いもあります。保育所は建物自体はそれほどお金はかからなくて、保育士の人員の配置の問題だけですから、建物自体については役場庁舎、町民会館、そして町営住宅がこのマネジメント計画の目玉だというふうに思っております。

- ◎ 保育所については過去の経過もあると思うが、唐突に感じているものですから、少しでも納得とまではいかななくても了解を得れるような努力を最大限やっていただきたいと思っております。

【町長】

30年度末をもって廃所という計画でありますから、保護者の方々も今後どうしたらいいのかという不安も大きいかと思しますので、保護者の方々、それから区長会の方々ある意味別でやった方がいいのかもしれないかもしれませんが、それぞれご相談をさせていただきたいと考えております。当時の方々が、渋々ご理解いただいたのは、十数年前高原保育園の存在がありまして、ご存じのとおり県東部の方はどんどん少子化が進んでいく、だけど高原保育園さんは民間ですから町の補助金等ももらってあれだけ立派な施設を造られて営業努力をされておられますが、そうした中で新川地区の方々でも民間ということで高原保育園さんを利用されている方もおられます、また、むつみさんも保育園の業務もできるように、むつみこども園という名前で未満児さんも預かれる設備を整えておられます。それぞれ民間で努力をされており、将来的に新川保育所で建て替えができるかといったら、厳しいということで、平成19年2月に当時の区長さんたちが渋々ご理解いただいたと理解しております。こうした地域の事情と、周りの事情も含めまして、また皆さん方と相談させていただきます。

- ◎ 泉の集落は、ご存じのとおり白岩川と栃津川との扇状地に村があるようなものです。

今から 49 年前ですが、昭和 44 年 1969 年に大水害にあい、私の家も床上 60 センチほど上がりまして、その後白岩川の改修とか栃津川の改修をされました。よく災害は 50 年に 1 回とか 100 年に 1 回とか言われるし、町長さんも防災を重点として公約をしておいでるものですから、ぜひこの場でお話したい。昭和 44 年 8 月 12 日だったと思います。ほんのわずかの 30 分の一気に洪水がきまして、よく防災訓練とかおやりになってますけれども、間に合わないような感じだと思います。そこで、砂防堰堤を造っていただいたらどうか。川の中州に木があるとか、橋げたに材木が詰まるとダムができたようになる。それで土手を超えてしまうと一気に水害が起きる。私は川の管理、中州の管理、それと今ほど言った砂防堰堤というものを造っていただくと、ある程度集落として安心安全に繋がると思っていますのでぜひお願いしたい。

【竹島建設課長】

今ほどの昭和 44 年の大水害。泉地区の皆さんにとっては大変怖い思いをされたと思っております。まあ 50 年に 1 回、100 年に 1 回という言葉がありますが、ここまで頻繁に起こるようになったら、あまり珍しくもなくなったということで、国土交通省の方では、想像を遥かに超える浸水被害想定図を作っております。それは国土交通省が管理する直轄河川になりまして、県の方は少し遅れてではありますが、栃津川、白岩川についても、浸水想定区域図の策定に着手したところです。町の方でハザードマップを皆様にお配りしておりますが、それは前の情報で作成してありますので、県が見直した区域図をもって、ハザードマップを見直したものをお配りできればと思っております。それはあくまでソフト対策で、ハード対策としまして、川の中の中州、ダムが出来て土砂の流入は少なくなってきたと思いますけれど、やはり堤防が崩れたりとか土砂が溜まったりしてきております。管理しております県にもしっかり河川管理をお願いしておりますし、川の中の雑木もしっかり切って、川の水が流れるように、また断面を確保するように、町から引き続きお願いしてまいりたいと思っております。それから護岸の補修とかもお願いしております。今ほどご提案がありました砂防堰堤には、中で一旦土砂を止めて、洪水が収まったら少しずつ流していくという機能がございますけれども、栃津川とか白岩川のような急流河川で常にたくさんの水が流れているところに堰堤を造るのがいいのかどうか、管理者の方で検討していただかないといけないと思います。砂防堰堤も白岩川の上流や常願寺川の上流の方に特に多く存在しておりますが、県の方でも整備していますので、住民の皆さんが不安に思っておられる言葉、そして声を、県の方に伝えていきたいと思っております。

- ◎ 公共施設等マネジメント計画、公共施設の計画及び連携中枢都市圏ですか。まあこういうのが、まあ立山町の現状、つまり少子高齢化し人口が減少しているという状態をもとに考えられているんだと思いますけれども、これはあくまで行政的な対策であって、町自体の人口が減少して、町長がどういったビジョンを持っておられるのか。

【町長】

資料1の人口には3つの山があります。一番右端のピークが70歳前後、いわゆる団塊の世代の方々が500人を超える数です。次の山が団塊ジュニアで、もう42～3歳で結婚適齢期にちょっと厳しい状況です。そして14～5歳、つまり中学3年生から高1あたりが団塊ジュニアの子ども世代です。

県全体で言えることですが、24歳25歳になると突然人口が減っています。特に女性の数です。24歳は女性は87人しかいない。大学4年間、住民票は立山町に残したままで県外に行き、就職が決まれば立山町にそのまま帰ってくるか、住民票を初めて県外に移すかということになるので、24～5歳になったら突然人口が減っているように見えますが、本当は18歳の時からこの人たちはいません。立山町というか富山は工場ばかりで、文系の子が勤めるとなると公務員か銀行しかないというイメージがあり、そのまま東京、大阪方面に転出してしまっているという状況であります。

県全体で毎年6,000人余りの人口が減っており、わが町は200人ずつ減っている。高齢者の方が増えてきて医療や介護にお金がかかるので、身の丈に合った行政、つまり行財政改革を進めていって、福祉に回す財源を持たなければならないことと、あと多少景気が悪くてもしっかりと税収が入る仕組み、つまり企業誘致、固定資産税が入ってくるので、この10年間ひたすら企業誘致に努めたところでございます。新川地区は富山に近いということで、企業誘致して税収確保に努めていく作業を、これからも続けてまいります。

- ◎ 3年前にふるさとに戻ってきまして、びっくりしたのは、整備された道路、五百石を中心として活気がなくなっていること。でも子どもたちの声や元気な登校、それは当時私がいた時とまったく変わらなくて、地域の活性化は凄く大事にしたいというところは、肌身で感じたことです。非常に人口が減っていく中で、管理計画において、このハコものの件が重要であるという説明がまずありきではないかと感じております。

【町長】

僕もUターン組で平成9年に13年振りに富山に帰ってきましたけども、驚いたのは道路の整備です。まず富山県自体が全国の中でも道路整備率が素晴らしいと思います。と同時に平成9年当時に県庁の人に言われたのは、農道の舗装率が富山県でトップクラスと言われました。町の基幹産業は農業で、土地改良整備事業はいち早く整備を進めてきているし、今度は農道舗装だって言って整備をしてきた。ずっと前にやってきたものですから、それが更新時期にきて多額のお金が掛かっています。農家の地元負担だけでは出来ませんので、長らく町が債務保証という形で整備を進めました。平成10年当時になったときには、その土地改良事業、債務負担行なっていうんですけれども、隠れ借金として長く溜まっていて、これが町の弱点でもありました。ようやく今、終わりつつあります。当時農家の方々が、農道舗装してくれ、と要望されたんです。3反田作ってくれと。

逆にあだとなったのが、国費を使ったものですから、国費を使った 3 反田のいい田んぼをすぐ宅地造成するわけにいかん、とってなかなか農地転用が難しい、これが特に立山インター周辺の問題です。イオンも然りで、数年前に土地改良事業をやり直したばかりだった事情があります。

ここに用水が流れていますが、平成 10 数年に、横江に全額国費で 130 億円で頭首工を作りここへ水を流しています。今それが稼動しています。昭和 40 年代 50 年代は人口が増えることを前提に、様々な都市計画道路が決定されて、25 メートル道路という夢みtainな計画が今もまだ残ってしまっていて、その後始末で苦勞しています。1 回計画で認定されたものをやめるというのは大変な作業です。

公共施設等総合管理計画は国から作れといわれました。平成 17 年以降、市町村合併を推進し、施設を統廃合させようというのが総務省の目標でした。合併していない所には、総合管理計画を作れという宿題をつきつけられています。これに、町単独でマネジメント計画を作りました。

保育所の問題は、保育料を親御さん達に払ってもらっていますが、75%は町の税金です。学校の先生の給料は国と県が負担していますが、保育士さんなり調理師さんは、ほぼ 100%町のお金です。立山町の弱点は、保育所の数が多かったことで、当然保育士の数が多くなって、その 4 分の 3 が町の負担となり、町の財政を圧迫していました。統廃合し職員数を減らしていますが、他の市町村も同様に減らしているので、追いつかなくて苦勞しているところです。

- ◎ 有害鳥獣駆除について、人間からすると全部害獣だが、獣からすると生活のためにやっている。1 週間とか 10 日くらいは、獣、鳥たちのために休んでもよいのではないか。

【舟橋農林課長】

基本的には狩猟期間だけで、それ以外は住民から苦情があったとかサルを見たとか、イノシシを見たとかいう場合に、町として許可を出すことができます。クマについては町では出せなくて、県が出します。ずっと出しているわけではありません。できるものでしたら出したくないんですけど、最近は確かにサル、イノシシが多くなってきて、中山間地域がすごく荒れてきています。中山間地域で暮らす人は少なくなってきており、ほとんど田んぼは電気柵で囲ってある状態です。非常に異様な風景になっております。今から 10~20 年前はそういったことはなかったのですが、最近山が荒れており鳥獣も多いということで、山手の方の子どもたちに危害を加えることのないよう、その辺を判断しながら許可を出すようにしています。

- ◎ 檻を見たら、期限で 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日まで、という看板が上がっています。ということは 1 年中出ておるという判断になりますが、いかがでしょうか。

【舟橋農林課長】

イノシシは場所を決めて檻を設置しております。イノシシが中山間地で凄く頭数が増えており、いろいろな被害等が発生していることから出しています。最近山の方の降雪も少ないため、イノシシは1年中活動をしています。そういったことから、檻を設置しています。

檻を置かない期間について、一度考えてみたいと思います。

- ◎ 家の前の側溝ですが、中に60cmか90cmの大きい枡があるため、泥を上げれない。立山土木事務所に言ったら1度上げに来ていただきましたけど、1~2年に1回必ず管理をするようにしていただかないと、側溝を見ていると側溝の機能もなくなって、草が出ている。特にカーブの所に泥が溜まりやすいと思う。

また、泉から寺田を通って立山の方へ行くと、五百石の下町から若宮へ来ておる大きな道がある。せっかくあそこまでつけながらも、何か中途半端である。今後計画としてあるのか、ないのか。

【町長】

私の記憶では計画はありません。あれもこれも出来ないものですから、地区で話をまとめていただいて、重点要望であるならば、検討したいと思います。

【竹島建設課長】

泥上げの件は、困っておられる側溝の枡は深いので、一般の人は上げにくいと思います。立山土木事務所へ直接言っていただくか、町の方へ言っていただければと思います。

3. 閉会の挨拶

若崎武司区長会長

窪田一誠議員

閉会